

2023年7月18日発行

発行責任者  
立憲民主党神奈川県議員団  
佐々木ナオミ

〒250-0875  
小田原市南鴨宮3-6-13 天野ビル1F西  
phone.0465-46-6831  
fax. 0465-46-6857  
https://naomi-sasaki.com/

# 神奈川県議会議員 佐々木ナオミの

# 県政リポート

# No.19



## 佐々木ナオミ、県議2期目、活動開始！

令和5年5月から、2期目の任期が始まりました！

小田原市選出の県議として、そして県西地域史上初の女性県会議員として人権、ジェンダー問題、山積する地域の課題に取り組んでまいります。県西の恵まれた自然を生かした地域活性化、そしてなかなか解消されない県内の東西格差の是正に向け全力で頑張っております！



## 新会派「立憲民主党神奈川県議団」に所属

県議会の立憲民主党所属議員の会派が3つに分裂したことに、たくさんのご心配のお声をいただきました。私は赤野県連幹事長自らが団長を務める会派に所属することになりました。「同じ政党所属の議員が、一つの会派になること」という県連代表や、幹事長の方針に沿った結論です。

新しい会派は10人。そのうちなんと半数が女性！政治分野でのジェンダー平等の実現です！

風通しがよく、なんでも議論しあえる、そしてみんなで協力し合える会派運営を心掛け、赤野団長の下、団員みんなで頑張っていくつもりです。



## 今年度は産業労働常任委員会に所属

産業、労働、そのほか産業労働局などの仕事について審査します。コロナ感染症や物価高騰に大きな影響を受けた中小企業、個人事業者の支援や、労働環境の改善や賃金の問題などにも取り組みます！

## 令和5年度第2回定例会の概要

6月15日より始まった、令和5年度第2回定例会。通常、知事選前に計上される当初予算は「骨格予算」。当選後は、知事の4期目に向けた政策を実現するための「肉付け予算」と言われていますが、今回の補正予算は過去の肉付け予算に比べ、予算規模が小さいことに、疑問の声も。「持続可能な神奈川」に向けて、少子化対策とデジタル推進に力を入れたさまざまな事業が提案。その中から、気になる事業をピックアップです。

### 主な事業

#### ● かながわPay第3弾

7月27日から実施。2月の補正予算と合わせて、総額100億円規模。しかし、登録者は30代から50代の方が70%。デジタル弱者へのフォローが不十分と指摘。

#### ● 恋カナプロジェクト事業

県内の市町が行う婚活イベントの広報や、マッチングアプリとの連携。少子化対の原因は、若者の貧困や、将来不安ではないか？当事者意識とズレた取り組みに疑問。マッチングアプリによるトラブルも心配。

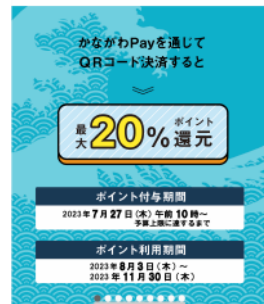
#### ● 結婚新生活支援

39歳以下で世帯所得500万未満の婚姻したカップルに、新居の家賃や引越し費用を支援。さらに、県営住宅での子育て世帯支援。低所得の子育て世代向けに県営住宅をリフォームして、子育て世代向け住宅の募集枠を増やす。小田原市もぜひ手を挙げてほしい！

#### ● 「消えかけ白線ゼロ」事業

これまでの調査で6割が消えかけている横断歩道等の補修を加速。

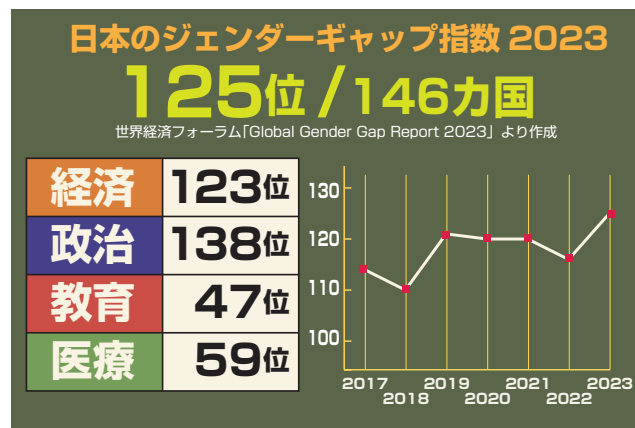
AIを活用した道路標識の摩耗状態を自動検知／判定するシステムも導入。小田原市でも要望の多い案件。一刻も早い「消えかけ白線ゼロ」の実現を！



## 県内中小企業でも、男性育休取得促進！

先日発表された2023年のジェンダーギャップ指数では、日本は146カ国中125位で過去最低！ 政治・経済分野は改善せずとのこと。「家事育児は女性の仕事」という意識が、女性の経済的自立やキャリアアップの壁となっている中で、各企業内で男性の育児休業取得が当たり前になる環境を作るため、県が奨励金を創設。すでに行われている育児介護休業法に基づく国の助成金に上乗せする形で、さらに要件も緩和、また「とるだけ育休」にならないように、長期の育児休業取得を促す形になっています。

しかし人員不足や昇進への影響などの課題により、中小企業では、まだまだ取り組みにくい状況です。私からは、すでに国の助成金を活用している企業のみならず、活用していない企業にもヒヤリングを行い、男性の育児休業所得への課題の抽出や具体的な支援を行ってほしいと要望しました。県内企業での男性の育児休業取得は、年々増えているとはいえ令和4年度は26.8%。この事業を活かし、男性も女性も、育児と仕事を両立できる社会の実現に向けて、今後も注視していきます。



## 県西地域でも、安心して出産できる場を！

今回の補正予算では、「産科・小児医療施設等誘致事業費補助」が創設。立憲民主党会派の提案が形になり、産科や助産院、また出産を扱わない助産施設や小児科を開設する事業者の施設整備費などに補助されます。県西地域は、出産できる産婦人科が少なく、また昨年度末で、足柄上病院の産科が廃止されました。

一方で、湯河原町では、助産院を誘致しようという市民の動きも始まり、助産師さんも意欲的に動いていらっしゃるとのこと。厚生常任委員副委員長である飯野まさたけ議員から、湯河原での動きについても当局に質問。町との連携によって補助金活用の可能性があることを確認しました。県西地域には助産院が一つもないなかで、ローリスク出産を支える助産院と、ハイリスクを担う市立病院とが役割分担ができれば、産科医不足により既存の産婦人科に集中する負担の軽減にもつながることが期待できます。自分らしい自然なお産を求める女性たちのためにも、県西地域での助産院開設に向けて、わたしも協力していきます！

6/12



3月に深刻な虐待が発覚した県立中井やまゆり園を会派で視察。改善に向けて、地域との交流を行っています。5月には23名を処分。知事も8月の給与を減額。誰もが人として大事にされる福祉を！人権侵害は決して許されません。

6/24



小田原市議会の新会派「ミモザリっけん」の女性議員たちとコラボしての街頭宣伝。

7/8



小田原市消防職員協議会での4年ぶりの対面での総会にてご挨拶。命の現場で頑張っている消防職員の皆さんの労働環境の改善に向けて、頑張ります！

6/17



神奈川県民功労賞にて。小田原医師会会長、渡邊清春さんが受賞。武井副知事とともに。

7/1



震災遺構として保存されている浪江町立請戸小学校。

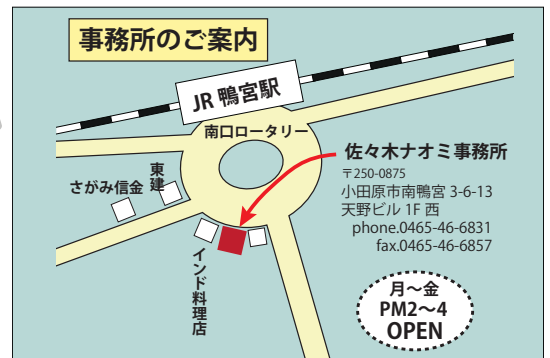
行った！  
見た！  
聞いた！

7/2



東日本大震災で被災した双葉町、浪江町へ、12年後の今を知る視察。

事務所のご案内



佐々木ナオミ事務所

佐々木ナオミ



小田原足柄地域メーデーに参加。連合議員団の仲間、清水たかお議員とともに。